

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401350		
法人名	医療法人NANOグループ		
事業所名	グループホーム菜の花Ⅱ		
所在地	長崎県南島原市南有馬町乙1565番地1		
自己評価作成日	令和7年9月26日	外部評価結果確定日	令和7年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvCd=4271401350-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvCd=4271401350-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年11月9日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

診療所と併設しているグループホームなので、医療的に重度の利用者が多いですが、医療面では診療所と連携をとり、利用者一人一人の状態に応じて医療的に十分なサポートが行われている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人のクリニックに事業所が併設されており、ほぼ毎日往診があつている他、緊急時や急変時には早急な対応が可能であり、他院受診の際は職員が送迎と付き添いを行うなど、医療の面での支援が充実している。看取り対応では入居時と終末期に入った時に意向を確認し、往診医が今後の治療方針を説明するなど、クリニックと連携しながら家族と入居者が安心して生活できるように取り組んでいる。毎月家族に連絡して利用者の近況や状態の報告を行うなど、利用者がどのように生活しているか家族が把握できるように努めている。前回の外部評価で次のステップに向けて取り組む目標として挙げていた非常時の備蓄の増量、身体拘束に関する研修会の開催など、挙げられた目標に対し積極的に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人の意志及び人格を尊重し自由に安全に生活できる」を理念に掲げ、食堂にも掲示している。全職員は利用者様を第一に考え実践するよう努めている。	事業所内の職員が確認できる場所に理念の掲示を行い、共有に努めている。「一人一人の意志及び人格を尊重し自由に安全に生活できる」という理念の実践のため、毎日職員間で申し送りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事がある時は参加するようにしている。近くで行事があった場合は見学に行ったりしている。	地域で開催されるマラソン大会に職員が参加し、地域との交流を図っている。また浮立(地域で行われる伝統的な踊り)が事業所の前を通る際は利用者が見れるように外出するなど、利用者とのつながりの維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人に対する理解はだいぶ深まっていると思うが、支援の方法等は地域の人々に向けて活かすきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し地域の方や家族、利用者様に事業所の入所者の状態報告や活動報告を行っている。そこで意見がでた事は他の職員にも周知しサービスの向上に努めている。	年に6回開催し、家族代表や行政だけでなく利用者にも会議に参加してもらうことで、当事者としての要望や意向をサービス提供に反映できるようにしている。会議の内容はミーティングの時間を設けて職員全員で共有し、サービス向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が日頃から連絡をとり相談を行っている。相談内容が時間がかかる場合は日程を決め直接市町村へ相談するようにしている。	わからないことがあればすぐに連絡を取るなど、日頃から密に連携が取れており、電話だけでは解決できない時にはアポイントを取って直接窓口に出向くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。どうしてもやむを得ない場合の時は家族に説明し同意を得ている。身体拘束を行った場合は経過観察を行い本人の苦痛を減らし早く拘束が解除できるようケアに取り組んでいる。	身体拘束をする場合は必ず家族から同意書を取っており、毎月ケアを見直すカンファレンスを行って必要なくなればすぐに拘束解除できるように取り組んでいる。また年に2回身体拘束に関する研修を行い、参加できなかった職員にも資料を配ることで知識の共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修がある時は参加している。内容については他の職員にも周知している。また職員が常に意識を持ち日々虐待がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修があれば参加するようにしている。必要性がある場合は活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者やケアマネージャーが直接対応するようにしており、家族の不安や疑問点を尋ねると共に十分な説明を行っている。分からない所があればいつでも聞いてほしい伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族への電話や面会時に心がけてコミュニケーションをとり意見や要望を聞いている。家族の面会が少ない方は電話で話し、意見や要望を聞き運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している他、家族の来所時やケアプランの更新時、月に1回電話で利用者の状態報告をする際にも意向の聞き取りを行っている。運動させてほしいとの要望があれば日中運動する機会を設けるなど、可能な限り意向の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議や毎日のミーティングを行い職員の意見や提案を聞き反映させている。	月に1回職員会議を行い業務に関する職員の意見や提案を聞き取っている。また勤務シフトも可能な限り職員一人一人の希望に沿うように調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等しっかり評価されており資格手当や能力給等で給料に反映しやりがいがもてるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は参加する事が少ないが、オンライン研修はできるだけ多く参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎県認知症グループホーム連絡協議会や島原半島グループホーム連絡協議会に入会しておりオンラインの会議や研修会を通じてサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前やホームの説明時に不安な事、困っている事、要望等を詳しく聴き安心してもらえる関係づくりに努めている。意思疎通が難しい方の入所が増えてきているが、本人の話を傾聴し、不安を取り除けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者やケアマネージャー中心になって家族へ困っていること、不安なこと、要望等をきちんと聞くようにしている。質問にも可能な限り返答できるようにしている。また困ったことがあればいつでも相談してもらうよう伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や意向を重視しつつ、身体状態も考慮しながら必要な支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事は自分でしてもらっている。レクリエーション等の行事には参加してもらい、よりよい関係づくりに努めている。また同じ立場ではなく目上の人と思い毎日接するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員では支援していくのが難しい部分もある為、家族にもできるだけ協力を得ている。また電話や面会時にも日々の状況や状態を伝え要望があれば聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への連絡を密に行っており、面会もできるだけしてもらっている。コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症で面会が難しい場合があるが状況に応じて面会できるようにしている。	面会の制限に関しては、基本的には主治医から管理者に判断をゆだねられている。市中の感染状況や、遠方への外出を伴う際には主治医に相談し判断を仰ぐケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時は食堂に集まって一緒に食べるようにしている。利用者様同士の関係性を把握し、席を変えたりして、少しでも他の利用者と同関わりをもてるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、本人や家族から相談等を受ける事はほとんどないが、会う機会があれば声をかけ必要があれば相談や支援にも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に意向を聞いて把握に努めている。困難な場合は家族の意向を聞きながら、生活歴や他の職種の意見を参考にしながら本人本位に検討している。	看取り前提での受け入れの方については、主治医と家族が話をする場を設け、看護師や施設管理者、ケアマネも同席している。一方、施設入居時にエアマット使用の指示があったものの、利用者本人から寝辛いとの意見があり、主治医にも相談して通常のベッドマットに変更したというケースもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞いたり、サービスを利用している場合は、直接話を聞いたりして情報提供をしてもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と職員との会話、表情や基本情報やアセスメント、日計表、個別の介護記録や毎日の申し送りで利用者一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者やケアマネージャーを中心に担当者会議を開催し、本人、家族や全職員の意見を聞き、どうすればよりよいケアができるか話し合いを行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。	看取り前提での受け入れの方も多いため、入居後の生活に加え処置の方針等についても、主治医や看護師からの意見もケアプランに盛り込んでいる。プランのモニタリングや更新時の会議には看護師が同席することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に日々の状態や様子、気づき等を記入し、必要な事はきちんと伝え職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や変化に応じてサービスの内容を変更したり、柔軟なケアができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護度が高い利用者様が多いが一人一人の状態に合わせて楽しみを持ちながら生活していけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に併設クリニックがかかりつけ医となっており、クリニックと連携を図り適切な医療が受けられるようにしている。状況に応じて家族と話し他の医療機関の受診も支援している。また眼科や歯科医等、本人、家族の希望に合わせて受診している。	併設のクリニックからかかりつけ医が毎日往診に来ており、利用者だけでなく職員の安心にも繋がっている。また、併設クリニックでは対応できない他の科等への通院については施設の職員が受診支援の対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護指導時や利用者様の身体の異常があれば看護師に報告、相談し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設クリニックへの入院、退院が主であり、常に医師や看護師と情報交換や相談を行っている。他の病院に入院の場合は面会ができれば面会し状態把握に努めている。難しい場合は家族に連絡をとって状態の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、主治医、看護師、介護職員で話し合いを行い、事業所のできることを探し十分な説明を行い、全員が方針を共有し、チームでの支援に取り組んでいる。	看取り段階での入居を受け入れており、入所時に看取りについての説明を実施し同意書を取っている。看取りケアに関するマニュアルが整備されており、事例も多かったことから、職員の看取りケアへの理解も高い。施設での看取りだけでなく、家族や本人の希望に応じ、主治医の協力を得ながら、病院や利用者宅での看取りケアを実施した事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料を基に院内で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回消防訓練を実施しているが地震や水害の訓練はできていない。月に一回防火自主点検表で確認を行い、また定期的に消防設備点検もうけている。不備があった場合は早急に対応している。	備蓄食やカセットコンロ等、自然災害への備えを前回よりも増やしている。避難訓練は、併設のクリニックの協力も得ながら実施できている。	自然災害想定訓練が実施できていないとのことである。同一法人内の他施設や他法人の交流のある施設の実施状況を参考にしながら実施していく予定とのことだったため、今後は火災訓練だけでなく、様々な災害を想定した避難訓練を実施し、緊急事態に備える事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様に合わせた対応を心がけている。忙しい時等少し口調がきつくなってしまう時がある。その時、機嫌をそこねてしまう時があるので少し時間や距離をおいて対応をしている。	利用者への声掛けの際は敬称付けを徹底している。希望者には同性介助を徹底しており、トイレ介助中は必ずドアを閉める等、日常生活の中でのプライバシー尊重もなされている。	新人研修の一環で実施していた接遇研修が、数年新人の入社が無いこともあり、実施できていなかった。利用者の介護度が高いため、業務に追われてしまい、つい声掛けの口調が強くなってしまおうという意見もあった。接遇やアンガーマネジメント等の研修を実施し、職員の負担軽減や更なるスキルアップに繋げることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるよう、日々声かけをおこなっている。意思疎通が難しい利用者様にはわかりやすい言葉や選択肢から選んでもらう等して、できるだけ自己決定できるよう働きかけている。利用者様によっては職員任せや遠慮される利用者様もおられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思疎通が難しい利用者様へも声かけ、表情を見ながら常に支援するようにし、利用者様のペースを大切にするように支援している。時々であるが職員の都合に合わせてしまっている時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合わせた服装、その方のこだわりを尊重した支援に心がけている。整髪や髭剃り、爪切り等細かい所は職員が気かけて手伝っている。家族にも話をし、衣類を頼んだりすることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは難しく、ほとんど職員が行っている事が多い。食材配達業者と契約しており、メニューは決まっているがイベントのメニューもあり、それに変更したり、好きな物を追加したりして楽しみが増えるようにしている。	月に1回程度行事食の提供があり、利用者の誕生日にはケーキも提供している。ふりかけや佃煮、梅干しを施設が準備し、利用者に提供している。希望者にはパンの提供を行うこともある。利用者からの希望があれば、預り金の中から刺身や菓子を購入し提供することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態や食事量チェック表で食べる量やカロリーを把握している。食事量やカロリーが少ない時は高カロリーゼリーやジュースを提供している。また本人の好む物で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きができる利用者様は見守りを行い自分で歯磨きをしてもらっている。難しい利用者様は職員が歯ブラシやガーゼ等で歯磨きを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、トイレ誘導を行っている。オムツを使用されている利用者様もあり、トイレの訴えがあった時はトイレ誘導を行っている。またトイレに行きたい時はコールを押してもらっている。部屋にトイレをおいてほしい利用者様はポータブルトイレを設置している。	排泄チェックシートを活用しながらトイレ誘導や介助を行っている。残存機能維持のため日中と夜間でリハビリパンツと布パンツを使い分けているケースもある。介護度の高い方も多いため、医師や看護師とも連携しながら、下剤や摘便の処置を行うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促したり、食事や間食でヨーグルトや芋、牛乳等を食べてもらっている。また便が出ない時は腹部マッサージや下剤を使用したり、看護師に相談し摘便を行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望にそえるよう努めている。朝から本人に尋ね、いつ何時頃に入浴したいのか聞いている。入浴を嫌がられた場合は職員をかえたり、本人の希望を聞き日をあらためて入浴してもらうようにしている。体調不良で入浴が難しい場合は、状態をみながら清拭等を行っている。	最低週2回は入浴の機会を確保しており、希望があれば増やすことも可能である。認知症の方への配慮も意識しており、声掛けのタイミングで工夫したり、拒否が強い場合には別日に入浴支援を行うなど、無理やり入浴していただくことは避けている。体力面やADL面から、入浴のリスクが高まった場合には清拭や洗髪にて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は声をかけ起きてもらうようにしている。運動等で体を動かしたりして夜間良眠できるよう支援している。日中寝られている時は睡眠不足だったりするので、あまり声かけしないようにしている。また温度、湿度調整、空気清浄機の使用や布団の枚数を調整し、心地よく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に全職員が薬の効能、副作用を把握するように努めている。特に追加で薬がでたり、変更になった場合は注意して服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビやラジオが好きな方は視聴ができるよう支援したり、洗濯物をたたんだり、新聞を折ったりなど本人が出来る事をしてもらっている。また好きな飲み物やお菓子を個別に提供し楽しみになるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人、家族の希望があれば外出支援をするようにしている。介護度が高い利用者様が多くあまり外出されない方が多い。外出したとしても車椅子で近くを散歩させる程度である。	地元のマラソン大会に医院長はじめ、多くの職員が参加するため、応援に出かけることもある。車いすを職員が押して近所を散歩することがある。 利用者から、墓参りや散髪に行きたいと要望があった際に、職員の対応で外出したこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は本人に任せているが、管理が難しい利用者様が多い。本人、家族に承諾をもらいお金を預かり、職員管理のもと必要に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり、つないだりして家族へのつながりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が過ごす時間が多い居室、食堂の温度、日光、明るさには注意して快適に過ごせるよう支援している。玄関や廊下、食堂には季節やイベントに応じて飾りつけを行っており、食堂の奥には畳がありくつろげるようになっている。また食堂から中庭をながめる事ができ四季を感じることが出来る。	職員からの要望で共用空間の畳の張替えを行った。掃除は毎日行い、季節ごとの飾りつけを行うことで、居心地のいい共用空間づくりを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かにテレビを見たい方、他の利用者様と会話を楽しみたい方、一人でゆっくりくつろぎたい方、それぞれの過ごし方ができるようソファを置くなど工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話をし今まで使っていた物、思い出の物等を持ってきてもらい、できるだけ過ごしてきた環境に近い状態で過ごしていただけるようにしている。途中欲しい物があつた時は家族に連絡し、もってきてもらったりしている。	毎日掃除を行い、各居室に空気清浄機を設置している。火器や刃物以外の持ち込みは可能で、冷蔵庫や布団を持ち込む方もいる。仏壇や位牌を持ち込んでいる方には、本人に代わって水を取り替えたりお供え物をするなど、入居者に寄り添った対応に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置して安全に、また自立に向けた支援ができるようにしている。食堂やトイレに自分で行かれる利用者様は近い居室にし、自立できるようにしている。		